

あそびまつりだより NO.3

2018.9.13

頌栄幼稚園

年中組

玉いれあそびをしました。道具の準備も友だちと一緒に体育館まで運んで準備完了です。「わたし口笛できるよ」と、今日は審判の子の口笛（口でピーッという方法）でスタートすることになりました。そして、審判の子も「いってくる！」と玉を投げに行ってしまいました。

誰が勝敗を見ておくのかな・・・



赤組（さくら組）は、近くにいた審判の口笛が聞こえて、終わりと思って一度止まりました。しかし、白組みには聞こえず、赤も白もどちらも投げ続けているので、また投げ始めました。

白組（うめ組）は玉が全部入ると終わりだと思っているので、最後の1つが入るまで投げ続けていました。

どっちが勝ったの？



勝敗をみている人がいないので、やはり「どちらが勝ったのかわからない」という話し合いになりました。

口笛で終わりと思っていた子は「同点、引き分け」
最後まで入れたら終わりと思っていた子は「白の勝ち」
意見が分かれて、中々、折り合いがつきません。

・・・「どうやったら終わるのかを、先に決めていたとよかった」と1つこたえが見つかったのですが、それでは納得しきれない子もおり、再び話し合いです。

そこで、周りで観察実習をしていた短期大学の学生さんに見ていたことを聞きました。

学生さんの意見

- 口笛が聞こえた時に両チームとも投げるのを止めていなかったのが引き分けと思う。
- 最初は赤が優勢だったけど、途中で玉をこぼしてしまい、その間に白が全て入っていた。
- 最初は赤が入れ終わったけれど、玉がこぼれて、その間に白が全て入れたので白が勝ちと思う。
- 口笛がなった時はどちらも玉が残っていた。次に口笛が聞こえた時には白が全部入っていたので白の勝ちだと思う。

色々な意見を聞いて、自分が見ていないところで何が起こっていたのかが解ってきました。そうすると、今回は終わりを決めてなかったので「口笛が鳴った時は引き分け」「全て先に入れたのは白の勝ち」どちらも、そうであるということでした。自分の意見に頑なだった子も納得できたようでした。このように意見を出しあい、時には我慢を覚えて受け入れあい、心の成長につながるのですね。

審判は見ることも役割の1つということに気づけたかな？今度の遊びにつなげていきたいと思います。

気持ちがあっという間でした！

